

就職活動を振り返って 『小さなリーダーシップの経験を積んでほしい』

旭化成株式会社
佐伯 宏之 (CX14)



私の経歴は“博士後期課程を卒業して企業に入った”という一言に尽きると思います。この立場からぜひ皆さんに役立てる内容をお伝えできればと思います。この度はこのような思いを伝えられる場を与えてくださった KTC 事務局および先生方に感謝したいと思います。

私は 2013 年 9 月に上田裕清先生、石田謙司先生のもとで博士号を取得し、卒業しました。その後半年間、奈良先端科学技術大学院大学の山田容子先生の研究室でポスドクとして雇っていただきました。そして 2014 年に旭化成株式会社に入社しました。研究開発業務に 6 年間従事し、今は旭化成労働組合の専従として、主に従業員の働きやすい環境づくりを目的に働いております。(専従というのは、組合の業務にフルタイムで働くということです。)

大学時代の専門は有機半導体の配列制御と有機薄膜太陽電池でした。一方で会社に入って関わった技術は感光性樹脂、離型処理、リチウムイオン電池であり、正確には専門外でした。しかし応用物理化学研究室で扱っていたテーマだったことや、出来成人先生や水畑 穰先生の電池の研究に触れていたこともあり土地勘がありました。おかげでスムーズに仕事に取り組み、いい成果を短期間であげることができたと思います。「大学では自分の好奇心を大切にし、周りの研究を良く見ておいてほしい」と思います。

リチウムイオン電池関連部材の研究開発では、米

国スタートアップの技術を見極める業務に携わり、スタートアップ技術者と英語で議論しました。また他社の技術を評価するためには契約書を結びます。こちらもちろん英語です。契約書のスタイルは日本と海外では大きく異なることや、契約書上で交渉が進展していくため、内容は非常にタフで、法務や契約担当などのスタッフともどのようにすれば自社とスタートアップと Win-win でありながら、有利に開発を進めることができるかを議論して仕事を進めました。昨今スタートアップを自社の存在を守るべく戦略は高度ですし、自社としてもコンプライアンス遵守が強化されています。そのため技術評価するにしても、求められる業務のレベルは高くなってきており、バックグラウンドの異なる人たちとの協力は避けては通れません。お互いがよく理解し合えるようなコミュニケーションが必須で、相手を思いやることが重要です。上田先生が大事にされていた「友愛」という言葉がまさに重要だと日々感じています。そして日本にいれば日本語でいいことが大半ではありますが、ひとたび英語を使いたすと急に、議論・難解な契約書・交渉などハイレベルな英語を必要とされます。やはり英会話を含め、学生時代に準備されている方がいいと思います。私は結局会社に入ってから英会話は始めましたが、それでもいいかなと思います。

もし博士課程に進みたいと思っているなら、ぜひ行ってみたいと思います。なぜなら、“自ら課題を考えて自分で検証する”経験は、実は会社に入るとやりにくい面があります。というのも上司はたいてい優秀ですから、とてもいい課題設定をしてくれます。また会社の方針に沿ったアサインメントがあるので、「自ら課題を考えて…」という部分が必要ない場面が新入社員の間は多いです。そしてそのことに慣れ切ってしまうことは“指示待ち”になるので大変危険です。これから会社内でたくましく生きていくためにも、自ら課題を設定し、自ら踏み出し、解決に導ける“小さなリーダーシップ”がなくてはなりません。博士課程はそのための良質な訓練の場であり、神戸大

学工学研究科ではその場がしっかりと準備されていると思います。

「博士後期課程に進むと3年か…長いな。」と思うと思いますが、平均余命が80歳を超える中、たかだか3年です。本気で3年を過ごすなら、十分おつりがくるほど価値ある時間になるはずです。また博士後期課程に進んだとしても、その後の人生でその専門性に必ずしもとらわれる必要はないと思います。その経験を十分に咀嚼し、リーダーシップを発揮できる人間になれば、どこでも活躍できると思います。そして博士後期課程で一つ専門性が身についているので、異分野でもう一つ専門性を身につけることができれば掛け算で、唯一の存在になれる大チャンスです。私は今、労働組合で働いていますが、今までの経験が組合の業務をする上で、確実に生きており、一味違う仕事をできているという実感があります。これはまさに博士後期課程で培った考え方や取り組み方のおかげだと思っています。

自分の内なる好奇心を大事にする力、人と協働できる力、自ら踏み出せる力、そして実際に解決した経験は財産です。それが学生時代に経験できていれば、何も怖いものはないと思います。その経験をどんな形でもいいので、学生時代にぜひ積んでほしいと思います。